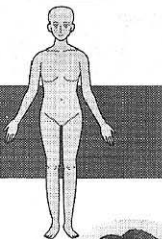


## キネシオテーピング

## 学術・論文



■第21回学術臨床大会発表から

### 腰椎椎間板ヘルニアに対する キネシオテーピング法の有効 性について



元氣堂整骨院 関東支部指導員 大藤 武治

①椎間板ヘルニアの患者21名に対して、カイロプラクティックとキネシオテーピング法を併用した結果を、ペインスケールの改善データをもとに解析し、検証した。治療法としては、モビリゼーション(機能回復)、アジャストメント(機能回復と障害部位の修復)、徒手牽引(機能回復)、キネシオテーピング(障害部位の修復)を施した。適用したテーピングは写真①(仙棘筋、靭帯横一テープ、大殿筋)と写真②(外腹斜筋)、写真③(ユニオンジャック)である。

②椎間板ヘルニアの患者4名をモデルに、①と同じキネシオテーピングおよび施術を行ない、施術前後の各種徒手検査および超音波検査装置による皮膚表面から筋層までの距離の測定を行なって、効果を検証した。

#### 結論

細かいデータは省略して結論だけを述べる。

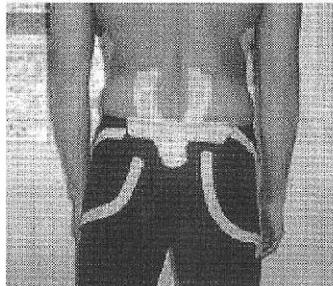
①カイロプラクティックとキネシオテーピング法を併用して施術した場合、50%のペインスケールに改善した割合は90%、70%のペインスケールに改善した割合は81%であり、これは腰椎椎間板ヘルニアの治療法として非常に効果的である。

②症状改善におけるリスクファクターとして、以下の3つが挙げられる。

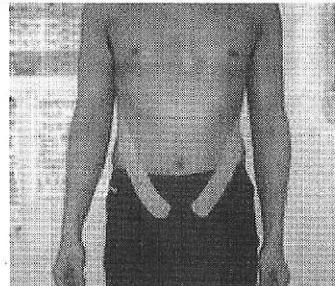
- ・タイプIヘルニア(髄核突出型)
- ・高齢
- ・発症後から初回治療までの経過日数の長期化

③キネシオテーピングには、以下の効果がある。

- ・屈曲、伸展、S L Rの可動域が大きくなる。



①



②

なる。

- ・ペインスケールを3~5下げる。
- ・神経学的検査の運動に一部改善が見られる。
- ・皮膚表面から筋層までの距離を広げ、左右差を縮小する。

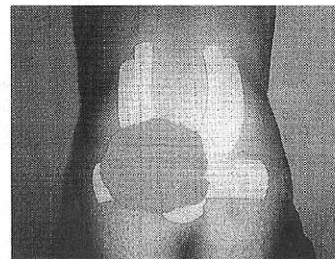
④施術には、以下の効果がある。

- ・屈曲、伸展、S L Rの可動域が大きくなる。
- ・キネシオテーピング貼付時より、更にペインスケールを3~6下げる。
- ・神経学的検査の運動、知覚に改善傾向が見られる。
- ・キネシオテーピング貼付時より、皮膚表面から筋層までの距離が狭くなるものもあるが、左右差は縮小する。
- ・腰椎、仙椎のカーブに改善傾向が見られる。

#### 今後の課題

エビデンスに基づき、安全でやさしく、自然治癒力が最大限に発揮される治療方法を確立するために、以下の項目について追加検討を行なう。

- ①臨床例100件を追加し、解析精度を向



③

上させる。

- ②症状改善に対するリスクファクターを明確にする。
- ③症状の改善が見られなかった臨床例の原因を調べ、治癒率を向上する。
- ④症状改善日数の予測を可能にする。
- ⑤治療期間を短縮するために、キネシオテーピング、施術およびリハビリ方法の確立と精度向上を図る。
- ⑥症状改善レベル(急性期、回復期、治癒期)にあわせた、キネシオテーピング、施術およびリハビリ方法の確立と精度向上を図る。
- ⑦予後の追跡調査を図る。